

光と影の織りなす情緒



「火」を使うことで進化し、文明を発展させてきた人類。
たき火を囲み、あかりと暖をとってきた記憶が人間の本能に深く刻み込まれているのでしょうか。
今も「あかり」は人の心に安らぎをもたらしてくれまます。
1日の終わりにゆったりくつろげる空間—そんなグランドメゾンをお届けするために、
積水ハウスは、街並みや暮らしとの調和を大切に、独自の哲学に基づいた照明計画を立てています。

大きな1枚ガラスで絵画のように切り取られた中庭が印象的な「グランドメゾン百道浜Villa」のエントランスホール。ダウンライトを最小限に抑え、間接照明を中心に構成したホールと、樹木をライトアップした中庭の明暗差により、視線が自然と中庭へ導かれます。

街のあかりとしてのマンション照明

集合住宅は共用スペースも含めて照明が多いので、街の夜景の中でも映えますね。街並みとの関係にも配慮して照明計画を立てられるのでしょうか？

「ええ、街並みやまわりの照明環境との関係、エントランスの方角などを配慮した上で照明計画を考えています。そうすることで、ぼつんと暗闇ができるといった事態を避けられ、夜道も安全に帰宅することが出来ます」(酒井)

「駅から自宅に向かって歩いて行くと、ほんのり明るく照らされたグランドメゾン(以下、GM)が見えてホッとする。そう仰つてくださる方もいらっしゃると思います。温かみのあるあかりは、安心感も育むものですね」(牧)

「共用スペースの照明のON/OFFをプログラムで切り替える場合にも、周辺の街灯やマンション照明の点灯時間を考慮に入れることが多いです」(平田)

「しかも、一度にすべての照明をつけるのではなく、アプローチ、エントランス、外階段など場所によって点灯するタイミングをずらすこともあります。太陽の光が昼から夜へ、徐々に移り変わっていくように、GMのあかりも明暗の中間地帯をつくりながら夜へと移行していくイメージですね」(酒井)

「細かいところではありますが、そうした配慮が、積水ハウスらしいところだと思います。GM百道浜Villaでは、外階段の照明を温かみ色合いにして光源をできる限り隠すことで、街の中に



縦ラインを強調した行灯のような外階段に対して、アプローチの照明は低めの位置に設定し、安定感のある落ち着いた雰囲気を出しています。(GM百道浜Villa/福岡県)

浮かぶ行灯のような趣にしていますね。GMに住まう方はもちろん、街との関わりを考えているからこそ、生まれたアイデアだと思います」(牧)

「GM百道浜Villaは、中庭を中心に据えたエントランスホール(P10写真参照)をはじめとして細部までこだわった照明計画が評価され、2012年の照明普及賞を受賞することができました」(酒井)

光の彼方に感じられるストーリー

共用スペースのあかりは、どのように計画されているのでしょうか。

「まずアプローチに灯されたあかりは、ゆるやかにエントランスへと誘い、街並みとマンションの中をつなぐ役割を果たしています。具体的には、足元灯とシンボルツリーの照明で誘うこともあれば、門構えや壁面を際立たせる照明を活かすこと



温かいあかりに包まれたわが家が見える。それだけで、ホッとするものなんですね。(牧)

「しかも、一度にすべての照明をつけるのではなく、アプローチ、エントランス、外階段など場所によって点灯するタイミングをずらすこともあります。太陽の光が昼から夜へ、徐々に移り変わっていくように、GMのあかりも明暗の中間地帯をつくりながら夜へと移行していくイメージですね」(酒井)

住まう人によるわしい光と影

これまで外観や共用スペースのお話を伺ってきましたが、入居者の方が最も長い時間を過ごすのは、家の中になりますね。住戸内における照明計画のポイントを教えてください。

「家の中の照明計画については、住まう人の年代や好み、ライフスタイルによって異なるため、十人十色。フロアスタンドや間接照明を中心に構成してホテルのようなグレード感を出したい方もいらっしゃるでしょう、全体が見渡せる明るさを好む方もいらっしゃると思います」(牧)

「たとえば明るいところから暗いところへ行った時の順応機能は、加齢とともに衰えていくもの。

もありません」(平田)

「そうして入ったエントランスでも、煌々とあかりを照らすのではなく、明るさに強弱をつけることで、この先に何かがあるという期待感が生まれるんですよ」(牧)

「照明はもちろん、太陽光の入り方やマンションの構造、内外装の素材、さらに物件によってはBGMや庭を流れるせせらぎの音なども含め、あらゆる要素の調和によってエントランスに足を踏み入れた方の五感に訴える空間づくりを目指しています」(酒井)

「植栽などは、昼と夜で異なる表情を見せるという面白さもありますね。昼は太陽光のもとで美しい新緑や紅葉を眺め、夜はライトアップされた葉の陰影を楽しめます」(平田)

「入居前に共用スペースの照明まで気にされる方は決して多くはないので、暮らし始めてからエ



昼は太陽光で、夜は照明の演出で楽しめる、エントランスホール正面の中庭。奥のエレベーターホールへと続く通路は明るさを抑え、照明に緩急をつけています。(GM百道浜Villa/福岡県)

ントランス照明の良さに気づいて夜の帰宅が楽しみになるといってお話も、耳にします」(牧)

「また、照明計画には空間演出とともに、段差を照らすあかりなど安全性への配慮も欠かせません。エントランスを明るくし過ぎないのも、そうなんです。たとえば、夜中にトイレへ行った時のことを思い浮かべるとわかりやすいと思います。暗いところから明るいところへ行く時には比較的早く順応できますが、明るいところから急に暗いところへ行くと、しばらくまわりが見えにくい状態になります。極端な明暗の差をつけて

方には、シーリングライトの交換やスタンド照明の追加などがおすすめです」(平田)

「同じ照明器具を設置しても、壁や床、天井の素材や反射率などによってイメージが大きく変わるのが、照明計画の奥深さですね」(牧)

「そうなんです。シミュレーションなどの数値だけでは表せない微妙な加減もあるので、最終的には経験が必要な部分だと思います」(酒井)



明るさが必要な時には、そこに光をあてればよい。ある意味、とてもシンプルでわかりやすい考え方です。(平田)

また、明るさを感じる機能にも多様な変化があります。それらを想定して全体的に明るくするというのも、ひとつの考え方でしょう。今すぐにそうした心配がないのであれば、全体照明は落ち着いた雰囲気仕上げ、必要に応じてスタンド照明を追加できるようにコンセントを多くしておくという考え方もあります」(酒井)

「まさに、わが家がそうしています。リビングは間接照明を中心にして安らげる空間にしており、本を読む時には手元をスタンドのあかりで照らしています」(平田)

「必要な時に必要なところを照らせるタスク照

明を取り入れることで、照明の可能性はぐっと広がりますよ」(牧)

「LEDが年々進化しており、最近は明るさを変える調光機能のみならず、色合いを調整できる調色機能付きの照明もあります。夏場は青みがかった昼光色で爽やかに、冬場は電球色で温かい雰囲気にする。あるいは子どもさんがリビングで宿題をしている時には明るい昼白色に、二家団欒でゆっくり過ごす時には電球色にするなど、季節やシーンにふさわしい照明にすることもできるのです」(酒井)

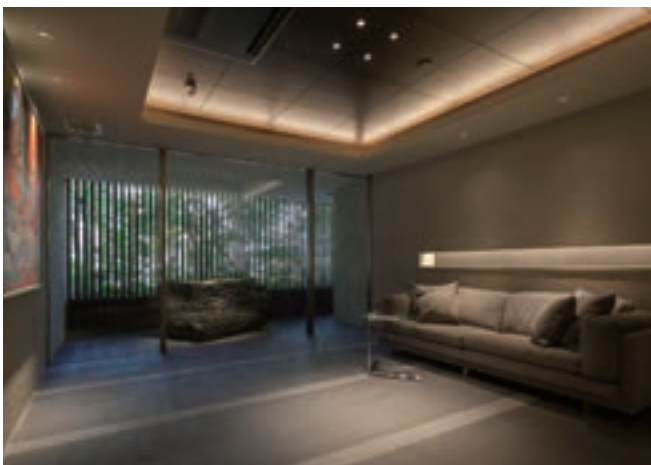
「今のお住まいの照明イメージを手軽に変えたい



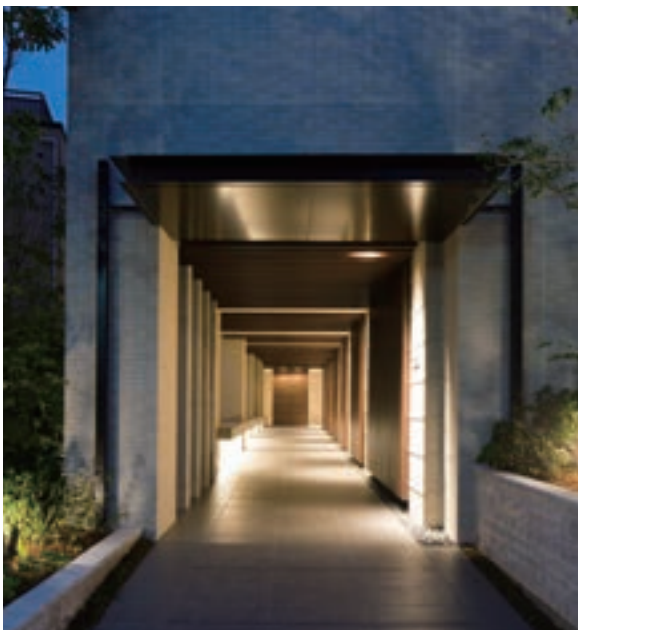
シンボルツリーの奥へと続くアプローチ。足元を照らすのではなく、壁面を照らすあかりにより、エントランスへとやさしく誘います。(GM白金/東京都)



エントランス両サイドの壁面はあえて暗めにして、エントランス前の床から風除室の床そして中庭へと続いたあかりによって中へ視線を誘導しています。(GM百道浜Villa/福岡県)



間接照明で落ち着いた雰囲気にとめたエントランスホール。ソファの前にあかりだまりをつくり、人が集いたくなる居心地の良さを演出しています。(GM丸の内スタイル/愛知県)



足元の左右から交互に床面を照らすように計画したエントランスアプローチ。奥行きのあるアプローチに心地よいリズム感を生み出しています。(GM東灘森北町/兵庫県)

talking member
福岡マンション事業部

(左から順に)

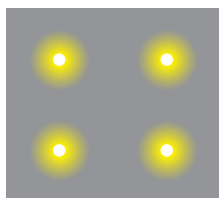
- 酒井公嗣:設計/趣味はフットサルとドライブで、休日は九州一円を車で走り、建築を見て回っています。また、友人とつくったフットサルチームで汗を流していますが、一向に上達していません。
- 平田一哲:宅地建物取引主任者/ゴルフが趣味で、ゴルフコンペなど事業部の仲間に参加できるイベントも積極的に企画しています。仕事でもプライベートでも、一緒に楽しく過ごせる仲間がいて幸せです。
- 牧亮太:宅地建物取引主任者/昨年グランドメゾンに引越して、今年は待望の長男が誕生。まさに順風満帆ですね。今は9か月の息子と遊ぶのが楽しくて仕方ありません。



ダウンライトの配置と照明効果

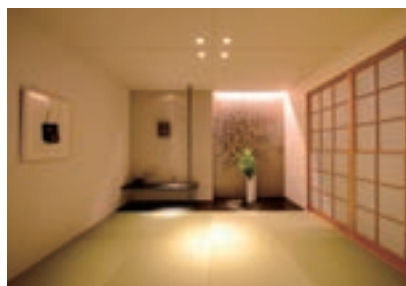
住まいの照明のアクセントとして取り入れやすく、人気のあるダウンライト。その配置によって、空間の印象や視覚的な明るさ感は大きく異なります。ここでは、ダウンライトを4灯設置した場合の照明効果の違いを比較してみましょう。

※写真は、ダウンライト4灯以外の照明も合わせて構成した参考イメージです。(すべて、GMデザインセンター/福岡県)



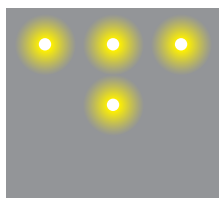
【均等に4灯配置】

間口と奥行きに対して均等にダウンライトを配置すると、明るさもおおよそ均一に。明暗のメリハリがないため、単調な印象を与える可能性があります。キッチンなど全体的に明るく照らしたい空間に適しています。



【中央に4灯配置】

部屋の中央にまとめて配置すると中央が明るくなり、壁面が暗くなることにより、他の照明が生きてきます。明るさ感がほしい場合は、間接型照明やダウンライトを併用すると良いでしょう。写真の和室は、中央の4灯に加え、床の間と床脇にアクセント照明を加えています。



【壁面に3灯、中央に1灯】

奥の壁面が明るくなることで視覚的な明るさ感が増します。さらに部屋の中央に1灯設置することで、水平面の明るさも確保。写真のリビングでは、間接照明やスタンドを合わせてシーンに応じて雰囲気を変えられるようにしています。



【両サイドに4灯設置】

両サイドの壁面が明るくなり、絵画などを飾ると雰囲気が高めることができます。フロアスタンドなどを併用すればリビングらしいくつろぎの空間に。写真の事例では、左右の配置を変えることで左の絵画を際立たせ、リズムを生み出しています。

照明用語解説

【色温度】

光の色を表す指標。色温度が高くなるほど青白くなり、低くなるほど赤みが増す。単位はK(ケルビン)。

【光束】

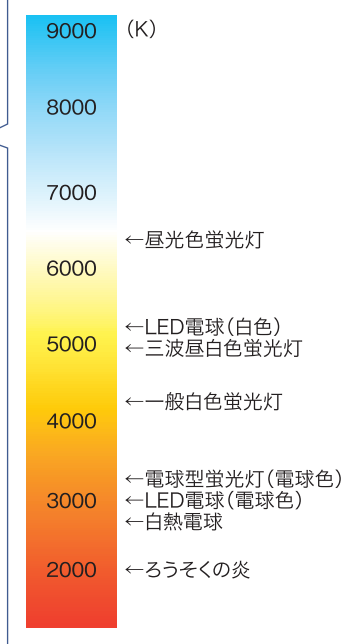
光源から放たれる光の明るさを示す指標。人間の感じる量を表す心理物理量のひとつ。単位はlm(ルーメン)。

【照度】

光に照らされている面の明るさを示す指標。単位はlx(ルクス)。

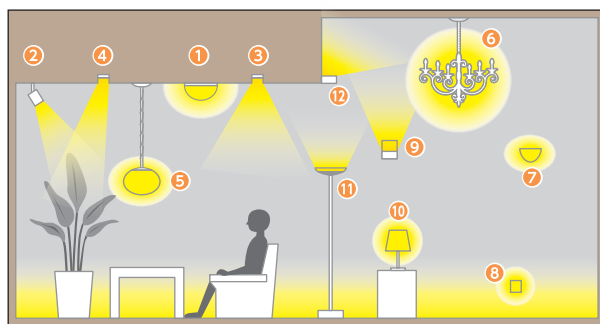
【明るさ感】

視覚的・心理的に明るく感じる度合で、照明メーカーで独自の指標を設けていることが多く、統一規格はない。照明だけでなく内装による影響も大きい。



住宅で使用される主な照明器具の名称

照明器具は、器具の種類も取り付け方もバリエーション豊富。用途に合わせた使い方が大切です。



【天井付型】 ①シーリングライト ②スポットライト ③ダウンライト

④アジャスタブルダウンライト ⑤ペンダントライト ⑥シャンデリア

【壁付型】 ⑦ブラケット ⑧フットライト ⑨シーリングウォッシャー

【置き型】 ⑩テーブルスタンド ⑪フロアスタンド

【内装一体型】 ⑫建築化照明



▼装飾性の高いブラケットが重厚な門構えを彷彿とさせるエントランスホール奥のロビーはダウンライトにシーリングライトでリビングのくつろぎ空間を盛りだてています。(GM高取寺番館/福岡県)

▼ベッドの上の間接照明が印象的な主寝室。枕元とカウチャーにはテーブルスタンド、収納側にはダウンライトを配しているため、就寝前や起床後に必要な明るさも十分に確保できます。(GMデザインセンター/福岡県)

▼インテリアとして、飾り棚の中に組み込まれた照明。バックライトがやわらかい光でオブジェを包み込み、幻想的な陰影を浮かび上がらせます。(GMデザインセンター/福岡県)

▼テーブルやソファなどインテリアの配置に合わせてダウンライトを設置したリビングダイニング。食事や団楽に必要な明るさを確保しながらも、ゆったりくつろげる空間になっています。(GM東海岸南/神奈川県)

素晴らしき日本のあかりの奥ゆかしさ

照明といえば、北欧デザインがすぐれているというイメージもありますね。「確かに、北欧の照明器具は機能的で、なおかつ長く愛用できるようなデザインのものが多いですね。冬の日照時間が短く、室内で過ごす時間が長いので、光への感性が研ぎ澄まされているでしょう」(平田)

「GMの照明計画においては、北欧などのデザイン性にすぐれたものもご提案するほか、日本人が古くから育んできた感性も大切にしたいと思っています。あかり障子からもれる薄明、ろうそくや行灯がつくる光と影の奥ゆかしさは、時代やライフスタイルが変わっても、多くの日本人の心に響くでしょう」(酒井)

「ものが見えることは大切だけれども、見え過ぎてしまうと、どこか興奮してしまふこともありますね。幽玄の世界というのでしょうか。あかりをつきつめていくと、文化的、文学的な話になつてくるように思います」(牧)

「少し難しい話になってしまいましたが、そうした文化的な背景を踏まえつつも、一番大切なのはその空間に住まうご家族が心地良く過ごせるかどうかですね」(平田)

「そうですね。住まいのプロとして、共用スペース、各住戸内ともに、住まいの満足していただける照明計画を提案し続けていきたいと考えています」(酒井)

日本人の心に響くあかりも、北欧の洗練されたデザインも含め、住まい手の暮らし方にふさわしい照明をご提案したいですね。(酒井)

